

1-3 都市づくりの目標

1. 「匝瑳市総合計画」基本方針の整理

(1) 将来都市像

海・みどり・ひとがはぐくむ 活力あるまち 匝瑳市

(2) 基本目標

< 基本目標 1 >

生きがいに満ち、笑顔があふれるまちをつくる（健康・福祉・医療分野）

< 基本目標 2 >

活気に満ち、はつらつとしたまちをつくる（産業・経済分野）

< 基本目標 3 >

自然と共生し、快適で安全なまちをつくる（生活環境・都市建設分野）

< 基本目標 4 >

個性豊かに学び、人々が輝くまちをつくる（教育・交流分野）

< 基本目標 5 >

市民と行政が協働し、市民が主役のまちをつくる（住民協働・行財政分野）

2. 「匝瑳市都市計画マスタープラン」都市づくりの目標

人口減少や少子高齢化の進展、市民の価値観やニーズの多様化、限られた財政事情など、本市を取り巻く社会情勢は変化し続けています。

このため、こうした状況に適切に対応してだけでなく、将来予想される事象を含めて対応できる都市づくりを進めていくことが必要となっています。

「匝瑳市都市計画マスタープラン」における都市づくりの目標は、本市の総合計画での「将来都市像」及び「基本目標」に対して都市計画の部門から実現化していくための目標となるもので、本市を取り巻く社会情勢の変化や本市の現状と特性、総合計画における市民意識調査結果などを踏まえ、次のように設定します。

目標 1：誰もが安心して快適に暮らせる都市づくり

市内に住む誰もが、生活に便利な環境のなかで、安全に安心して暮らし続けられる都市づくりを目指します。

市内の拠点と周辺地域との有機的連携
安全で快適に移動できる道路空間の整備推進
公共交通サービスの維持・充実
施設整備におけるユニバーサルデザインへの対応
施設の耐震化、狭あい道路の改善などの防災対策の推進 など

目標2：さまざまな交流と地域の活力があふれる元気な都市づくり

既存の商業集積や工業集積、豊富な農業資源や自然・歴史・文化を生かした産業振興と交流の促進に加えて、銚子連絡道路の延伸などを生かした新たな活力を生み出していく都市づくりを目指します。

既存集積を生かした産業（商業・工業）の維持・活性化、拠点づくり
 農業・植木産業を生かした都市との交流の推進
 豊富な水・緑資源、祭事や歴史資源を生かした観光の振興
 銚子連絡道路インター周辺における新たな活力づくり
 魅力ある交流拠点、都市景観・自然景観の創出 など

目標3：緑・水の環境を保全し地域資源を生かした都市づくり

本市の特性である海、緑、田園等の自然環境や歴史資源を守り・生かし、これら資源と共生した都市づくりを目指します。

海岸や緑（植木、里山等）を象徴する拠点の維持・整備
 自然・歴史資源と触れ合う散策・回遊ルートの整備
 緑化等に配慮した道路・公園・公共施設等の整備
 良好な農業生産環境の保全
 地球環境への負荷の軽減 など

目標4：協働によるまちづくり

市民や企業など、多くの関係者が地域まちづくりに参加し、それぞれの役割を果たしながら多様なニーズへの対応や誇りのもてるまちづくりを目指します。

地域主体となるまちづくり活動への支援体制の整備
 まちづくり活動への市民・企業等の参加の促進 など

1-4 将来都市構造

都市づくりの目標を踏まえて、将来都市構造を次のとおりとします。

1. ゾーンの形成

(1) 市街地居住ゾーン

国道126号沿線に広がった用途地域内及び周辺の住宅地、野栄総合支所周辺の住宅地、海岸沿いの住宅地を「市街地居住ゾーン」として位置づけ、都市機能の集積、都市基盤整備の推進により、居住環境を向上させ、良好な市街地形成を図ります。

(2) 里山・歴史交流ゾーン

里山の美しい自然と飯高寺や飯高神社をはじめとする歴史的な文化遺産が多く点在する北部の丘陵地帯を「里山・歴史交流ゾーン」として位置づけ、里山としての山林の自然環境の保護を図りつつ、人々の憩いの場、交流の場としてその活用を図ります。

(3) 田園生産ゾーン

九十九里平野に広がる田園と農村集落を「田園生産ゾーン」として位置づけ、本市の基幹的産業である農業の発展のため、農地の集約化と優良農地の保全及び適正な管理を進め、良好な農業生産環境の整備を図ります。

2. 拠点の形成

(1) 都市交流拠点

市役所及びJR八日市場駅周辺地区、JR飯倉駅周辺地区、野栄総合支所周辺地区の公共施設や商業施設などの都市機能が集積する区域を「都市交流拠点」として位置づけ、商業・業務機能と交流機能の充実を図ります。

(2) 観光・交流拠点

九十九里浜沿岸地域、ふれあいパーク八日市場、飯高寺周辺を核とした地域を「観光・交流拠点」として位置づけ、市内外の多くの人に利用される憩いの場としての観光ネットワーク機能充実を図ります。また、北部の里山・歴史交流ゾーン、田園生産ゾーンとも有機的に連携したグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムによる観光振興による拠点形成を図ります。

(3) 産業拠点

みどり平工業団地を中心に「産業拠点」として位置づけ、銚子連絡道路の整備による交通機能の優位性を生かしたさらなる企業立地を促進するとともに、良好な工業環境の整備・保全に努めます。

(4) 医療拠点

匝瑳市民病院と八日市場地域保健センターの周辺を「医療拠点」として位置づけ、医療・福祉サービス機能の充実とともに交通アクセスの向上を図ります。

3. 軸の形成

(1) 都市活動軸

JR 総武本線、国道 126 号、銚子連絡道路の計画路線、国道 296 号を「都市活動軸」として位置づけ、都市機能の集積を進めます。

なお、各拠点間と周辺都市との経済・文化・観光等の連携を強化し、交流人口の増大を図ります。

(2) 地域拠点間連携軸

九十九里浜から野栄総合支所周辺、みどり平工業団地、JR 八日市場駅周辺及び飯高寺周辺に至る各拠点を南北に結ぶ軸を「地域拠点間連携軸」として位置づけ、一体的な都市としての発展を目指し、地域間の連携強化を図ります。

(3) 海洋リゾート軸

九十九里浜一帯を「海洋リゾート軸」として位置づけ、海浜観光施設の整備充実と、市内の歴史的観光資源や健康・スポーツ施設などとの連携によるネットワーク化を進めます。

また、海岸及び海浜景観の保全、観光商業の集積を進め、海洋リゾート軸の形成を図ります。

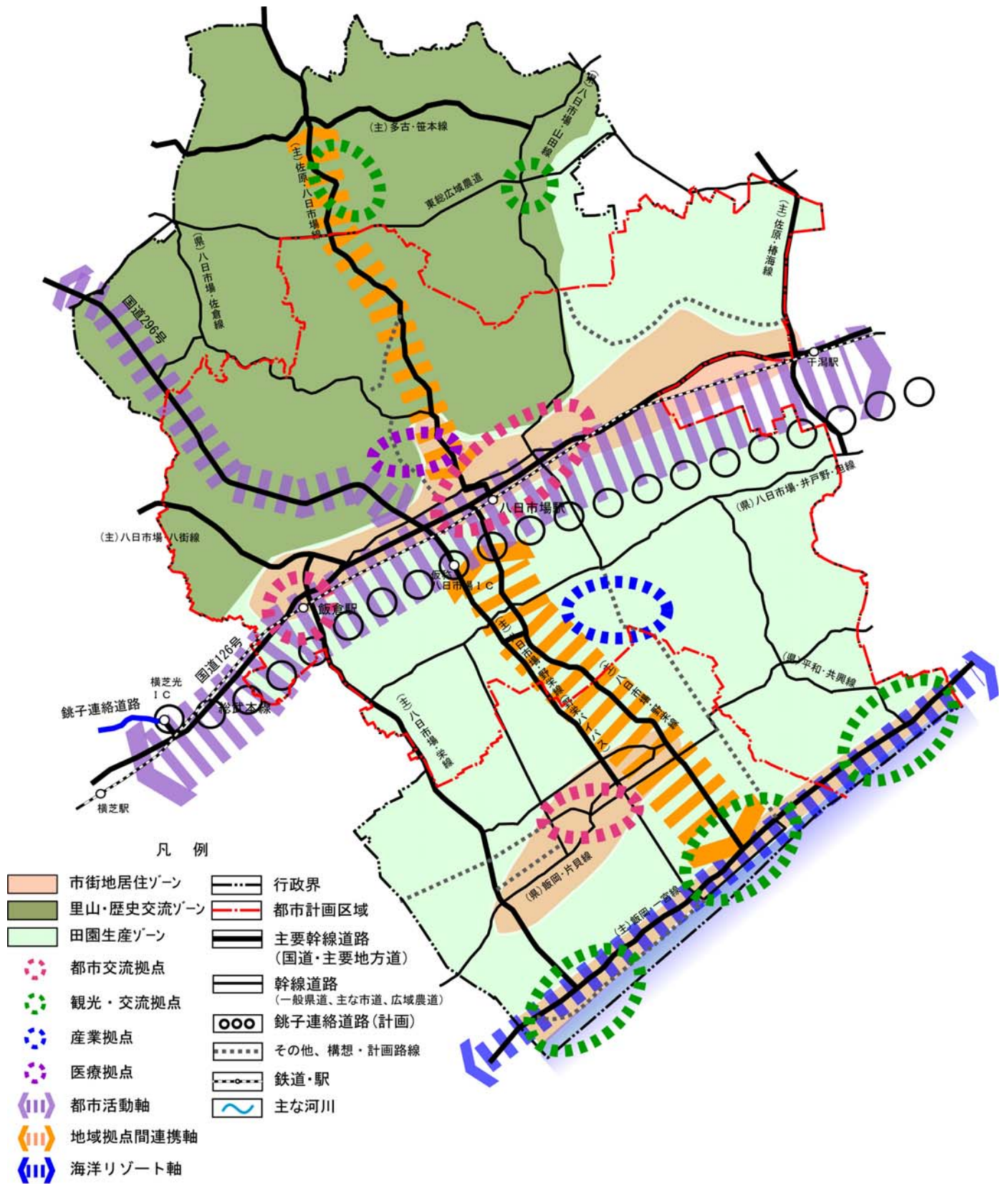


図 将来都市構造